

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 21 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381226

研究課題名(和文) 実社会と他教科に資する漢字・語彙指導法の確立

研究課題名(英文) Research of the teaching method of kanji and vocabulary which is useful for society at large and each subject.

研究代表者

河内 昭浩 (KAWAUCHI, Akihiro)

群馬大学・教育学部・准教授

研究者番号：10625172

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、実証的なデータをもとに、指導すべき漢字と語彙を選定し、その指導方法を確立することにあつた。言語のデータベースであるコーパスを活用して、教科書や一般社会の漢字や語彙の出現状況を調査した。主な研究成果は次の4点である。(1) 中学校教科書新旧対照語彙表の作成(2) 中学校第1学年漢字配当表の作成(3) 教科書脚注欄に示すべき語句の観点の設定(4) 語彙単元「和語・漢語・外来語」の確立

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is a selection of kanji and vocabulary. The purpose of another research is to create the teaching method of kanji and vocabulary. Therefore, I made use of corpuses. And I conducted investigations of kanji and vocabulary. The main results of research are the following four points. (1) A report of old and new junior high school textbooks vocabulary table. (2) A report of the kanji table of a junior high school. (3) A report of the viewpoint of the words which should be shown in the textbook footnote column. (4) A report of a vocabulary unit "wago, kango, gairaigo".

研究分野：教科教育学

キーワード：漢字 語彙 コーパス 教科書

1. 研究開始当初の背景

(1)平成 22 年 11 月、改定常用漢字表が内閣告示された。1945 字であった常用漢字は、196 字追加、5 字削除により計 2136 字となった。この改定に合わせて、平成 20 年に告示された中学校学習指導要領は、その一部が改正され、中学校第 1 学年、第 2 学年で指導する常用漢字の数が、それぞれ 100 字程度増えることになった(「常用漢字表の改定に伴う中学校学習指導要領の一部改正等及び小学校、中学校、高等学校における漢字の指導について」平成 22 年 11 月文部科学大臣通知)。ただその通知の中に、新しく常用漢字表に加えられた、どの漢字をどの学年に含むべきかといった具体的な言及はなかった。

(2)平成 20 年 1 月の中央教育審議会答申における、国語科の「改善の基本方針」の中の、中学校国語科に関する「改善の具体的事項」には、漢字の指導については、「社会生活や他教科等の学習における使用や、読書活動の充実に資するため」に行う必要があると述べられている(「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」)。しかしどの漢字を、いつ、どのような語彙をもって指導すれば、「社会生活」、「他教科等の学習」、「読書活動」に資することができるのかを、客観的な根拠をもとに提示するような研究はこれまで行われていない。またそもそも、「社会生活」、「他教科等の学習」、「読書活動」において必要な漢字や語彙が何であるかが具体的に示されたことはこれまでほとんどなかった。

(3)国語科の教科書の各単元・教材には、その脚注欄に、注釈の施された語句や、類義語・対義語等の語彙学習のために本文から抜き出された語句が列挙されている。しかし、どの語句が児童生徒にとって難解であり注釈が必要なのか、またどの語句を、語彙学習の対象とするべきなのかについて、これまで明確な根拠が示されたことはなかった。

(4)上記(1)～(3)の背景及びそれに対する問題意識をまとめると以下の 3 点になる。

常用漢字の段階的な指導の具体像が明らかになっていない。

実生活や他教科の学習に資する漢字・語彙指導法が確立していない。

明確な根拠をもとにした、教材で取り扱うべき語彙の選定がなされていない。

常用漢字表の改定に当たっては、国立国語研究所が提供したデータなどの、様々な言語実態を示す資料が拠り所となって議論が進められた。国語科教育における漢字と語彙の取扱いについても同様に、実証的な資料をもって研究を進めていかなければならない。研究代表者は、特定領域研究「日本語コーパス」(平成 18 年度～22 年度)内のプロジェクト「言語政策班」に参画し、コーパスという実

証的なデータを国語教育に応用するための研究を続けてきた。連携研究者の田中牧郎はその代表者である。本研究を始めるにあたり、これまでに整理したデータや知見を十分に生かすことができると考えられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、各教科の学習内容と教科書の用語、並びに日本語の実態をもとに、実証的に、学習者に指導すべき語彙を選定し、体系的、横断的な漢字・語彙指導の方法を提示することにある。実証的、かつ体系的、横断的な漢字・語彙の指導は、国語科教育学において依然確立しておらず、本研究成果は、科学的根拠を持った国語科学習指導法の確立に、大きく貢献できると考えた。

こうした目的のもと、以下の選定並びに提示を行うこととした。

(1)指導すべき常用漢字・語彙の選定

中学校学習指導要領国語では、常用漢字の指導について、第 1 学年で学年別漢字配当表に示されている漢字 1006 字に加えて 300 字から 400 字程度、第 2 学年でさらに 350 字から 450 字程度、そして第 3 学年で「常用漢字の大体を読むこと」と記されている。しかし具体的に各学年で、どの漢字を指導するべきなのかは定められていない。小学校では学年別漢字配当表によって、各学年で指導すべき漢字が定められている。小学校との接続を考える上でも、特に中学校第 1 学年については、指導すべき漢字を明確にする必要がある。

指導すべき漢字を定めるには、どの漢字や語彙が、子どもたちが社会生活を送る上で、また様々な教科を学ぶ上で必要かを実証的に見定めなければならない。

社会生活の漢字と語彙の使用状況については、国立国語研究所を中心とした特定領域研究「日本語コーパス」(平成 18 年度～22 年度)によって作成された、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を活用することができる。「現代日本語書き言葉均衡コーパス」は様々なジャンルの書き言葉を集積した巨大コーパスで、そこから現代書き言葉の実態を知ることができる。

一方、教科書の漢字と語彙の状況については、これまで平成 17 年度使用の教科書をもとに「言語政策班」で作成した、「教科書コーパス」を活用することで、研究の成果を挙げてきた。しかし、平成 20 年の学習指導要領の改訂に伴い、今一度、教科書の学年ごとの記述を見直し、一からデータ化しなければならない。特に中学校教科書をコーパス化し、指導すべき漢字・語彙の選定のための基礎資料を作成する必要がある。

(2)学年別漢字配当表見直し案の提示

中学校で指導すべき常用漢字の検討と同時に、小学校学年別漢字配当表に示されている漢字 1006 字の検討を行う。「現代日本語書

き言葉均衡コーパス」から見出せる現代日本語の実態と、最新の教科書のデータベースから導ける、各教科の学習に必要な漢字・語彙の情報を、1006字に照射する。

(3) 教材で指導すべき語彙の選定

中学校では「故郷」、高等学校では「羅生門」など、国語科教科書には、教科書会社各社にまたがり、長年にわたり掲載されている、定番教材と呼ばれる教材がある。しかし教材は同じでも、そこで取り上げられる語彙は各社まちまちである。その原因は、これまで、指導すべき語彙を明確な根拠を持って選定するといった視点が、語彙指導全般に不足していたことにある。指導すべき語彙の選定の観点を明確にする。その上で、教科書や一般社会の言語の実態をもとに語彙を選定する。さらに、そうした語彙の指導方法を明らかにする。

3. 研究の方法

他教科並びに実社会に資する漢字・語彙を選定し、その指導法を確立するために、以下の研究方法をとった。

(1) 中学校教科書のコーパス化

まず、現行の学習指導要領に準拠した教科書の、日本語部分の電子化作業を行った。次に、電子化したテキストを単語に区切り言語解析を行い、品詞や語種の情報を施した。こうした作業には、特定領域研究「日本語コーパス」の中核であった国立国語研究所の知見が不可欠であった。連携研究者の田中、近藤と連携を密にしながら作業を進めた。

具体的には以下の手順で進めた。

2014年度使用の中学校全教科の教科書から、採択率の高い教科書を、1冊ずつ選定する。

文字入力と校正を業者に委託して電子化作業を実施する。

電子化された教科書のデータの言語解析を行う。

(2) 中学校教科書新旧対照語彙表の作成

言語解析を終えた教科書のデータをコーパス化した。そこから語彙を抽出して一覧表を作成した。既存の教科書のコーパスとして、言語政策班で作成した2005年度使用の教科書のデータが手元にある。そこで、現行の教科書と、旧課程の教科書の語彙とを比較するために、中学校教科書新旧対照語彙表を作成した。

(3) 常用漢字表語例の検討

常用漢字表は客観的な資料に基づき、平成22年に改定された。しかしその際、漢字表に付されている「語例」の検討はなされていない。

本来漢字指導は語彙指導である。どの漢字をどの語で指導するべきかを、実社会や教科

書の語彙の在り様をもとに判断する必要がある。

そこで常用漢字表の語例のすべての、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」並びに新しく作成した教科書のコーパスにおける出現状況を整理した。そうした語例の出現状況をもとに、小学校学年別漢字配当表や中学校で指導すべき常用漢字の検討を行った。

(4) 国語科教材の語彙指導法研究

長年、複数の教科書会社で採択されている定番教材を電子化し、言語の分析研究を行った。特徴的な語彙を抽出し、その指導方法を提案した。旧学習指導要領の段階から、河内（「羅生門」）、田中（「少年の日の思い出」）はすでにこうした研究に取り組んでおり、これまでの経験を踏まえて研究を発展させることができた。特にこれまでの研究で、教科書の脚注欄に示す語句に、その語句を提示する客観的な根拠が見られないなどの課題があることが判明していた。実社会と教科書のデータをもとに、教材で扱うべき語彙の観点を定め、指導すべき語彙の一覧表を作成した。

4. 研究成果

(1) 中学校教科書新旧対照語彙表

2014年度使用の中学校全教科各1冊の教科書の、日本語部分を対象としてコーパスを作成した。その上で2005年度使用の教科書のデータと結合した。

扱った教科書は、2014年度版26冊、2005年度版28冊である。延べ語数の総数は、2014年度版1124837、2005年度版749903である。また異なり語数の総数は、2014年度版27833、2005年度版23893であった。本表作成で、品詞や語種別の比較なども可能になった。

こうした全教科書のすべての日本語を対象とした対照語彙表をもとに様々な、指導すべき語彙の選定を行った。

例えば2005年度と比較した増加率を見ると、他教科に比べて理科の増加率が高いことが分かった。そこで統計的手法を用いて、理科の、新しい教科書コーパスに特徴的な語彙を抽出した。「考察」「関連」といった語がそれに当たる。

本研究成果により、各教科の学習の、専門内容の変化を具体的にとらえることができる。また語彙の観点から、各教科教育研究に、従来にはない示唆を与えることもできるであろう。

また各教科の語彙の中から、国語科で指導すべき語彙を明らかにすることも可能になった。さらに本語彙表は、教科担任制が置かれている中学校国語科教員にとって、他教科の学習内容を知る機会にもなる。

(2) 中学校第1学年漢字配当表

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」と教科書のコーパスにおける漢字の出現順位、また常用漢字表語例の出現状況などをもとに、

中学校第1学年で指導すべき漢字400字を抽出した。以下にその内の50字を列挙する。なお詳細は、次項に掲げた[図書]にある。

[中学校第1学年配当漢字]

彼	郎	込	違	吉	藤	歳	井	江
卸	突	介	離	撃	振	奥	僕	佐
頼	渡	与	抜	影	香	企	婚	押
戻	津	岡	浮	越	頃	沢	秀	抱
監	崎	鮮	敷	端	逃	緒	房	舞
倒	寝	療	尾	描				

今後、配当漢字として確定させるためには、実際の中学生への習熟度調査や現場の教師の知見などが必要になる。また別途行った小学校学年別漢字配当の見直し案と関連付ける必要もある。

種々課題はあるが、コーパスという実証的なデータをもとに、根拠を持って漢字を選定できたことに大きな成果があると考えている。

(3)教科書脚注欄に示すべき語句の観点

教科書の脚注欄には、文やイラストなどで解説の施された語句(注釈語句)と、意味調べや短文作成などの学習を促す語句(学習語句)が列記されている。

注釈語句

「羅生門」をはじめとしたこれまでの脚注欄の語彙の研究によって、注釈語句は以下の2観点で選定するべきとの考えに至った。以下に「羅生門」の語例とともに示す。

- ・作品固有の難解語...注釈がないとその作品の読解に支障がある語。例えば「黒洞々たる夜」は、下人の心情や作品の主題につながる語である。しかし一般の辞書には掲載されていない。こうした語には注釈を施す必要がある。
- ・文化語...作品の読解に必要なとまでは言えなくても文化度の高い語。例えば「火桶」や「丹塗り」の語は、伝統文化継承の観点からも生徒に理解させたい。一方で学習語句として習得・活用させる必要もなく、注釈を付けるのが適当である。

学習語句

学習語句の選定方針は、教科書によって異なる。読み方や意味を理解させるための語句から、類義語・対義語の学習に充てる語句まで、幅広く語句を配列している教科書もあれば、慣用表現以外は学習語句として扱わない教科書もある。学習語句は以下の2観点で選定するべきであるとの考えに至った。

- ・理解語...学習者にとって難解だが、社会生活を営む上で理解の必要があると考えられる語句。かつ、作品読解において、意味調べの学習が必要であると考えられる語句。
- ・表現語...社会生活を営む上で必要性が高いが、日常的に学習者が表現に使用する

機会は少ない語句。短文作成などの学習が有効だと考えられる語句。

こうした観点のもと、コーパスから語彙を抽出した。特に学習語句については、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の2つのサブコーパス(図書館サブコーパス、Yahoo!知恵袋サブコーパス)の語彙レベルを活用することで、適切な語彙を選定できることが分かった。

- ・「図書館サブコーパス」d・e + 「Yahoo!知恵袋サブコーパス」d・e 理解語
- ・「図書館サブコーパス」a・b + 「Yahoo!知恵袋サブコーパス」d・e 表現語

(4)語彙単元「和語・漢語・外来語」の確立

以下の観点に基づき、コーパスから、中学校第3学年で指導すべき和語・漢語・外来語を選定した。詳細は次項に掲げた[雑誌論文]にある。

相手や場面に応じて使い分ける「漢語」
日本語の語彙の豊かさを知る「和語」
日本語の広がりを知る「外来語」

ここでは、指導すべき漢語として抽出した25語を掲げる。

[指導すべき漢語25語]

対話	分布	考察	着目	構想	情景
保全	仮説	調和	共生	景観	列強
焦点	探究	展望	抽出	採択	指針
伝承	振興	筆者	出典	批評	討論
季語					

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

河内 昭浩、和語・漢語・外来語の指導、群馬大学教育学部紀要人文・社会科学編、査読有、第65巻、2016、pp.27-36

河内 昭浩、「交わり」を導く語彙指導、安田女子大学大学院文学研究科紀要、査読無、第20集、2015、pp.1-19

河内 昭浩、常用漢字表「語例」の検討、安田女子大学紀要、査読無、第43号、2015、pp.203-212

河内 昭浩、中学校学年別漢字配当表の構想 第1学年を中心に、安田女子大学日本文学会国語国文論集、査読有、第45号、2015、pp.11-22

河内 昭浩、理科教科書のことばと理科学習語の選定、日本語学、査読有、第33巻3号、2014、pp.69-77

河内 昭浩、他教科・社会とつながりのある国語科漢字・語彙指導法の構想、安田女子大学大学院文学研究科紀要、査読無、第19集、2014、pp.1-18

河内 昭浩、教材「故郷」の語彙研究、安田女子大学紀要、査読無、第42号、2014、pp.129-138

〔学会発表〕(計7件)

河内 昭浩、語彙に注目した「羅生門」の指導、第47回解釈学会、2015年8月23日、茨城大学

河内 昭浩、学習語彙の選定と活用(2)和語・漢語・外来語などについて、第128回全国大学国語教育学会、2015年5月31日、兵庫教育大学

河内 昭浩、国語教育のための常用漢字表語例の検討、第7回コーパス日本語学ワークショップ、2015年3月10日、国立国語研究所

河内 昭浩、教科学習語彙の選定と活用、第127回全国大学国語教育学会、2014年11月9日、筑波大学

河内 昭浩、学年別漢字配当表に関する諸調査「常用漢字表」語例の検討を中心に、第126回全国大学国語教育学会、2014年5月18日、愛知教育大学

河内 昭浩、中学校学年別漢字配当表の構想、第125回全国大学国語教育学会、2013年10月27日、広島大学

河内 昭浩、高等学校における漢字・語彙単元の構想、第45回解釈学会、2013年8月20日、花園大学

〔図書〕(計2件)

田中牧郎、河内 昭浩、近藤明日子 他、コーパスと国語教育、朝倉書店、2015、(田中)pp.1-29,137 (河内)pp.61-70,71-91,92-108 (近藤)pp.176-202

河内 昭浩、コーパスを活用した国語科学習指導法の構築、安田女子大学実践教育研究所、2015、273

6. 研究組織

(1)研究代表者

河内 昭浩(KAWAUCHI, Akihiro)

群馬大学・教育学部・准教授

研究者番号：10625172

(2)連携研究者

田中 牧郎(Tanaka, Makiro)

明治大学・国際日本学部・教授

研究者番号：90217076

近藤明日子(Kondo, Asuko)

国立国語研究所・コーパス開発センター・

非常勤研究員

研究者番号：30425722